

平成 22 年 3 月 16 日現在

研究種目:基盤研究(C)

研究期間: 2007 ~ 2010

課題番号:19520365

研究課題名(和文) 聴覚的制約と調音的制約が第一および第二言語習得に果たす役割について

研究課題名(英文)The Role of Auditory and Articulatory Constraints in L1 and L2 Acquisition

研究代表者

深澤 はるか (FUKAZAWA HARUKA)

慶應義塾大学・商学部・准教授

研究者番号:50315165

研究代表者の専門分野:人文学

科研費の分科・細目:言語学・言語学

キーワード:音韻論・言語学

1. 研究計画の概要

- (1) 最適性理論の枠組みにおける制約の聴覚面と調音面の双方からの性質を実証的に検討することで、認知システムにおいて、聴覚と調音が果たす役割を解明することが主目的である。
- (2) 主目的達成のため、聴覚的、調音的制約、特に「必異の原則」「聞こえの階層」という制約を対象に、「聞きにくさ」「言いにくさ」を定量的に求め、その性質の果たす役割を実証するために、第一言語獲得話者と第二言語獲得話者に対する知覚実験を行う。
- (3) 制約の果たす役割を基盤として最適性理論の精緻化を行う。

2. 研究の進捗状況

- (1) 研究1年目には、聴覚的制約と調音的制約に関する検討および理論内における制約の役割の再検討を行い、第一および第二言語獲得への知覚実験の準備を行った。それぞれの段階で各種勉強会や、日本音韻論学会、「現代音韻論の論点」(晃学出版)等に随時中間発表をし、国内外の識者から有益なコメントを得た。
- (2) 2年目には、米国カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校のピオラ・ミグリオ博士や米ウイラメット大学の藤原美保博士の協力を得て、第一および第二言語獲得の知覚実験を行った。また、それらの制約が、最適性理論において果たす役割を、早稲田大学の北原真冬博士と英国エジンバラ大学の太田光彦博士とともに検討追究し、成果を、

Generative Approach to Second Language Acquisition, Studies in Language Sciences 7 等、国内外の学会や学会誌に発表した。また、理論的精緻化を行った成果として、本理論のバイブルとも呼べるアラン・プリンス、ポール・スモレンスキー著、「最適性理論 - 生成文法における制約相互作用」を翻訳した。

- (3) 3年目には、知覚実験の結果を分析し、そこから聴覚的制約と調音的制約の果たす役割、及び、それらの制約の獲得に重要な役割を果たす要因として、「パラダイムの一貫性(Paradigm Uniformity)」、「間接的反証(Indirect Negative Evidence)」、「照合性制約」の3側面を提案し、それを基盤として理論的精緻化を行った。成果は Tokyo Conference on Psycholinguistics や日本音声学会第27回大会シンポジウム等で発表した。また、実験で用いた刺激を再検討し、より厳密な理論的精緻化を行うための新たな実験の必要性を明確にし、そこで用いるべき刺激を検討した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

理由: 聴覚および調音的制約に関して検討し、その果たす役割を実証するための第一言語獲得話者と第二言語獲得話者への実験を行い、それを基盤として、理論的精緻化が順調に進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

3年目までに行ってきた実験のさらなる精度を上げるために、実験で用いる刺激を再検討し、それをを用いて再度、第一言語獲得話者と第二言語獲得話者への知覚実験を行う。その結果を分析検討し、聴覚的制約および調音的制約の果たす役割を明確にし、その側面から最適性理論の精緻化を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

1 Fukazawa, Haruka & Miho Fujiwara, "The Role of Indirect Negative Evidence and Paradigm Uniformity in L1 Acquisition of the two types of Japanese Adjective" The Proceedings of Tokyo Conference on Psycholinguistics, 査読有, 93-116, 2009.

2 Fukazawa, Haruka, Mafuyu Kitahara, & Mitsuhiro Ota, "Optimality in Cognitive Science," Studies in Language Science 7, 査読有, 41-57, 2008.

[学会発表](計4件)

3 深澤はるか "Invariant Factors in the Core System of OT" 日本英語学会 2009年11月15日, 大阪大学

4 Fukazawa, Haruka & Miho Fujiwara "The Role of Indirect Negative Evidence and Paradigm Uniformity in L1 Acquisition of the Two Types of Japanese Adjectives" Tokyo Conference on Psycholinguistics, 2009年3月14日, 慶應義塾大学.

[図書](計1件)

5 アラン・プリンス, ポール・スモレンスキー著, 深澤はるか 訳 岩波書店, 最適性理論-生成文法における制約相互作用, 2008年, 390ページ